授業で勝負・先手必勝の挨拶・心を耕す読書

きざはし

金ケ崎町立金ケ崎中学校
平成 29 年度校報
第２３号
平成 29 年 10 月 12 日発行
文責：遠藤

復興教育講演会

被災地学習・奉仕活動

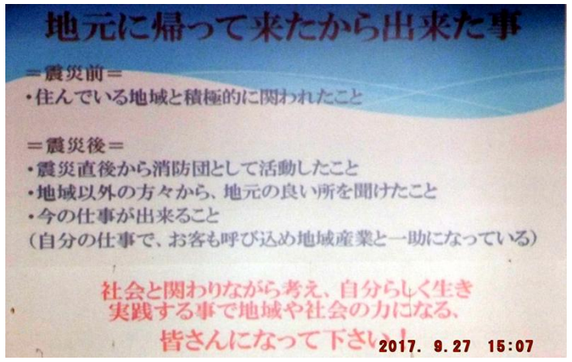
9 月 27 日（水）に、**２年生**は**「被災地学習及びボランティア活動」**に陸前高田市を訪問し、**１年生**は本校体育館にて**「復興教育講演会」**を開催しました。東日本大震災大津波の発災から 6 年半の歳月が流れようとしています。あの時、小学校低学年や幼稚園・保育園の園児だった諸君が今中学生として活動しています。あの日、あの時の思いを鮮明に覚えていることと思います。この経験を語り継ぎ、生かしていかねばならないという思いから講演会、学習・奉仕活動を実施しました。

２年生は、被災地である陸前高田市内の復興状況を語り部ガイドさんの説明を聞きながら見学学習（見学地：旧道の駅「高田松原」、旧気仙中学校校舎、かさ上げ市街地）しました。そして、仮設住宅モビリアへ移動し住宅地周辺の草取り作業に汗を流してきました。

2 年生諸君はこの見学学習及び仮設住宅でのボランティア活動を行い、被災地の現状を見、どのように感じたのでしょうか・・・・・・。事前学習では*「草取り～・・・・、なんで？」*といった声もあったと聞きましたが、今はどんな思いでいるのでしょうか？**自分たちにできること、自分たちがやらなければならないことをしっかりと見つめて、考え実践していく**ことがこれからも必要なことだと思います。

１年生は、本校体育館で**復興教育講演会**を開催しました。講師は陸前高田市小友町で牡蠣養殖を営む佐々木さんにお願いしました。

佐々木さんは実父、兄弟とその家族で広田湾内で牡蠣養殖に取り組んでいます。東日本大震災大津波では、所有していた船、牡蠣棚すべてを失い、さらに実家の住宅等も流される被害にあいました。その中で、幸い家族共々命だけは助かりました。そして**「今、自分たちが再び漁業を、牡蠣養殖を始めなければ、誰がやるのか！」**という強い思いで、家族兄弟で協力して歩み始め現在に至るまでを話して頂きました。復興への歩みは、船を作り、牡蠣棚をそろえ‥と莫大な負債を抱えたことも意味します。そして、やっと 2 年前頃から見通しが持て復興への明るさを見いだしてきたことを伝えてくれました。



【佐々木さんからのメッセージ】

次に 1 年女子生徒の感想を紹介します。

私は、この講演会で地域の人たちとの関わりがとても大切なことが分かりました。東日本大震災で犠牲になった人々や行方不明者がいて、沢山の人が大切な人を失ってしまっている中、仲間と一緒に立ち上がって地域のために活動しているのがすごいと思いました。津波で漁業の道具等が流されてしまい、今まで牡蠣の漁業を行っていた 30 人が 10 人まで減ってしまいました。それでも一億円の借金をしてまで漁業を続けたことがすごいと思いました。私は、今日話してくださった次の言葉が印象に残っています。*「俺らがやめたら他の残った人たちが困る。漁業をやめるという選択肢はなかった。」*地域復興に向けて頑張っていることが分かりました。

また、陸前高田について観光が大切だと感じたそうです。震災があってから、まだ高田松原の海で泳げないそうです。わたしも震災前に何度か行ったことがありますが、とてもいいところでした。これからは私も自分の地域のことについて、しっかり考えていきたいし、東日本大震災で自分が経験したこと、沢山の人が犠牲になったことを忘れずに一日一日大切に過ごしたいです。

このように講演会では地域の人たちとの関わりの大切さや、今過ごしている時間がどれだけ貴重なものか、これからどう生活していけば良いか考えさせられました。私もこれからはもっと地域の人たちと関わり、自分らしく生きていきたいと思いました。この講演会から沢山のことを学ぶことができて、とてもいい経験だったと感じます。これで終わりせずに、普段の生活から講演会で学んだことを生かし、考えていきます。また、何事も諦めず一生懸命頑張っていきます。

復興と援教育、仮設近くの草取りに汗

陸前高田で金ケ崎中

金ケ崎町の金ケ崎中（遠藤宗校長、生徒453人）の2年生148人は21日、復興支援教育の一環で陸前高田市を訪れ、仮設住宅近の草取りに汗を流した。同校は学年ごとに復興支援教育を実施、今回は住民の要望を受け、同市小友町のモビリア仮設住宅で、住民が過ごしやすい家になり雑草が生い茂る場所の美化活動に努めた。

生徒たちは、機械では刈りにくい場所に生えた背の高い雑草を手や鎌で地道に刈った。

陸前高田復興まちづくり情報館や震災遺構の気仙中校舎なども見学し、語り部ガイドの説明を真剣な表情で聞いた。

鈴木拓人さんは「震災前にも陸前高田に遊びに来た思い出があり、時間がたって復興も進んでいると思ったが、現地を見てまだまだなんだと再認識した。災害時の逃げ方や大切さを学んだ」と被災地の現状を感じていた。

この新聞記事を見て、校長の教え子Ｋさん（陸前高田市小友町在住）から次のメッセージが届きました。*「ありがとうございます。生徒の皆様には感謝です。」*

岩手日報　H29-9-28

訂正　校報 22 号に誤りがありました。次のように訂正します。大変失礼しました。
〇ソフトボール女子（江刺一中・**水沢南中**と合同）

衣替え

10 月 2 日（月）から衣替えを行いました。暑い夏がアッという間に過ぎ去り、もう秋の色があちこちに見えています。木々の緑も徐々に色づき、紅葉へと変わっているところです。黄金色の頭を垂れた稲穂の収穫もほぼ終えたように見うけられます。

衣替えの時期を過ぎると一気に今年度の後半です。まずは文化祭！先日、文化祭のスタートを飾る組団集会が開催されました。金中文化を創造する文化祭。今年はどんな大輪の花を咲かせてくれるのか、楽しみにしています。

2学期中間テスト
県学習定着度状況調査

9 月 25 日（月）、地区新人大会後程なく 2 学期中間テストが行われました。既に答案用紙や得点通知表も返却されたものと思います。結果は‥‥？！

さらに 2 年生は 10 月 4 日（水）に、県学習定着度状況調査が県内一斉に実施されました。中学校生活の折り返しとなる 2 年生のこの時期に学習状況を確認することは、今後の中学校生活及び学習や進路選択に大いに役立つものと思います。

「秋の日は、つるべ落とし」と言います。時間を有効に使い、効率よく部活動や諸活動に取り組む工夫をが求められてきます。時間がない・・・忙しい・・・ではなく、**時間を見いだす工夫と努力が大きな効果を生み出す**ものと考えます。秋の夜長、時間を大切にし有効活用を図りましょう。